

県中農林ニュース

第10号(平成30年12月発行)

編集・発行 福島県県中農林事務所



(写真: ASAKAMAI 887)



～ 目 次 ～

○特集：「県中地方のお米」

- 田村市船引町堀越産米『里山のつぶ』を皇室に献上しました！
- 第11回『天栄米』食味コンクールが開催されました！
- FGAP 認証書交付式を開催しました！
- ASAKAMAI 887 発表会 郡山市産最高級コシヒカリ販売開始！

○農林業関係の動き（トピックス）

- 『こおりやま産業博』に出展しました！
- 小野町農作物品評会で見事な『白菜』が県知事賞を受賞しました！
- 菌床しいたけイノベーションセンター竣工式が行われました！
- (株)デンソーハッピーフェスタに出展しました！
- 『森宿地区』の起工式が行われました！
- 『おいしい ふくしま いただきます！』キャンペーン県産農林水産物のPRを行いました！
- 職場研修会を開催しました！

• 内山正勝・ナツ子夫妻の第59回福島県農業賞受賞祝賀会が行われました！

• 平成30年度農事功績表彰者を御紹介します！

○頑張る農業者！！

- 小抜農匠園株式会社 小抜吉平氏

○産地の動き！

- さつまいもの作業機械実演会が開催されました！
- 次世代を担う地域農業先端モデル事業現地検討会を開催しました！

○おいしい6次化商品のご紹介！

- 菓子工房 あくつ屋（田村市）

○各部・各普及所の紹介！

- 今回は農村整備部です。

特集：「県中地方のお米」

県中農林事務所管内は、水稻・野菜を主体とする郡山地域、畜産・野菜・水稻を主体とする田村地域、水稻・畜産・野菜を主体とする須賀川・岩瀬・石川地域の3方面に大別されますが、いずれの地域でも水稻は経営の柱となっています。

管内の耕地面積のうち水田は71.4%、水稻の農業産出額は198億円であり本県全体の3割を占める一大産地となっています。

一方、主食用米の需要量は全国ベースで毎年8万トンずつ減少、また、中食や外食ニーズが3割を超える現状を踏まえ、需要と用途に応じた米づくりと水田のフル活用により産地間競争に打ち勝っていく必要があります。

そのため、県では、「30年以降の福島県水田農業の推進方針」に基づき、水田活用の直接支払交付金を活用した麦、大豆、飼料用米等の生産拡大、地域の特性を生かした園芸作物の導入とともに、本県オリジナル品種による特色ある米づくり、農地利用集積による経営規模の拡大、新技術導入による低コスト化などにより、生産者の所得の向上に取り組んでいるところです。

また、JAや流通団体と連携し、良食味米産地の評価を不動のものとするため、新たに全ての銘柄での食味評価オール特Aの獲得への支援、最上級の品質を目指した新品種開発、需要が伸びている中食、外食を対象とした業務用米の生産拡大など、持続的な水田農業の振興に取り組んでおります。

田村市船引町堀越産米『里山のつぶ』を皇室に献上しました！

【田村農業普及所】

平成30年度の新嘗祭献穀献納者に、田村市船引町堀越地区の佐藤円治氏が選ばれ、新しい県オリジナル品種「里山のつぶ」を献上米として生産しました。

5月の田植え以降、田村農業普及所が栽培管理を支援し、天候にも恵まれたことから順調に生育しました。9月19日（水）には田村市、JA、地元農業法人等関係者立ち会いのもと、古くからの地域の習わしに則り、収穫の儀式である「**拔穂祭**」が厳かに執り行われました。

刈り取った稲を献納者と関係機関・団体が丹精込めて脱穀・調製し、去る10月22日（月）、献納者ご夫妻と田村市長が献上米を皇居にお届けしました。

田村農業普及所では、今回の良質な献上米生産の活動を生かし、生産者とともに「里山のつぶ」も含めた田村米のブランド力向上に取り組みます。



【「拔穂祭」で関係者による刈り取りの様子】



【献納者による稲穂の奉納の様子】

里山のつぶとは？

「里山のつぶ」は、平成29年にデビューした県オリジナル品種です。

中山間地域向け品種として県が11年の歳月をかけ開発しました。

～「里山のつぶ」の特徴～

1. 栽培適地 標高300m以上。
2. 出穂期・成熟期は「あきたこまち」と比べて2日ほど遅い。
3. 倒伏しにくく、いもち病や低温に強い。
4. 粒が大きい。
5. 食べたときにしっかりとした歯ごたえがあり、適度な粘りも感じることができる。



第11回『天栄米』食味コンクールが開催されました！【須賀川農業普及所】

11月3日（土）に天栄村健康保健センター「へるすぴあ」において、第11回「天栄米」食味コンクールが開催されました。

総出品点数83点のうち、総合部門で12点、品種栽培部門で3点がそれぞれ選ばれ、最終審査の官能審査に進みました。

官能（試食）検査では、食味鑑定士をはじめとする20人の審査員により、総合部門で金賞4点、優秀賞8点、特別栽培部門で金賞1点、優秀賞2点が選ばれました。

また、この金賞5点のうち、3点は、天栄米栽培研究会で栽培されている極良食味米「ゆうだい21」でした。



【受賞者一同による記念写真】

天栄米について

「天栄米」は天栄村産の「コシヒカリ」や「ゆうだい21」などで、「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」で2008年より9年連続で金賞を受賞し、「世界一の米」として知られています。

「天栄米」は、「特別栽培米 天栄米」と「漢方環境農法 天栄米」、「鑑定吟味 極献上」の3種類が販売されています。

また、県内唯一本格栽培が始まった新品種「天栄米 ゆうだい21」の初年産米の販売が今月の1日より村内の「道の駅季の里天栄」ではじまりました。

「ゆうだい21」は宇都宮大が2010年に開発した品種で、粒は大きく甘みがあり、もちもちしているお米です。

米・食味分析鑑定コンクールとは？

米・食味鑑定士協会が2000年（平成12年）より行っている“お米のコンクール”です。

2000年ごろ、未だお米の検査と言えば、「等級検査」のみが主流であった頃から、お米の食味にこだわり、また、衰退しつつあった「地方・農業・稲作の復興」を後押しするべく始まったコンクールです。

第1回は100検体に満たない出品数で始まりましたが、今や、総出品数国内最大である「5,600検体以上」を誇り、数多くの自治体との共催により、開催規模、受賞部門等、お米では最大級のコンクールへと成長しました。

第10回コンクールより、国際大会となり、コンクールにて受賞されました皆様は、国内はもとより海外からも高い評価を得ています。

【「米・食味鑑定士協会」（米・食味分析鑑定コンクール）ホームページより】

FGAP認証書交付式を開催しました！【農業振興普及部】

10月19日（金）に、ASAKAMAI 887（アサカマイ・ハチハチナナ）GAP部会がFGAPに認証されました。

これに伴い10月24日（水）に、県中農林事務所内においてFGAP認証書交付式が行われ、桃井所長から遠藤昭夫部会長に認証書が手渡されました。

ASAKAMAI 887は、市内の生産者21名が栽培に取り組み、7つの独自基準【食味値88点以上、タンパク質含量6.1%以下、ふるい目2.0ミリ、整粒歩合80%以上、特別栽培米、エコファーマー認定者、GAP



【FGAP認証書が手渡されました】

Pに取り組みこと】の達成を基準としています。基準の一つであるGAPの取り組みでは、施設内の整理・整頓やマニュアルの整備等、多くの御苦勞があったようですが、実際に取り組みを行った生産者からは、「機械や資材の管理が行き届いて使い易くなった」、「今後もより良い農場づくりを進めていきたい」等の感想が聞かれました。

農業振興普及部では、関係機関と連携して安全で美味しい最高級の米づくりを支援するとともに、今後もGAP認証を推進してまいります。

ASAKAMAI 887 発表会 郡山市産最高級コシヒカリ販売開始！

【農業振興普及部】

ASAKAMAI 887 とは、郡山市産コシヒカリの最高級ブランド米です。米作りにかかる 88 の手間と 7 つの独自基準【食味値 88 点以上、タンパク質含有量 6.1% 以下、ふるい目 2.0 ミリ、整粒歩合 80% 以上、特別栽培米、エコファーマー認定者、GAP に取り組むこと】が名称の由来です。

今年、市内の生産者 21 名が「ASAKAMAI 887」栽培に取り組んだ結果、厳しい気象条件にもかかわらず 14 t の米が基準をクリアし、平成 30 年 11 月 28 日、郡山ビューホテルアネックスにて開催された ASAKAMAI 887 発表会で披露されました。

発表会では ASAKAMAI 887 の紹介、生産者の紹介および生産者を代表して遠藤昭夫氏からのあいさつに続き、商品披露後、試食が行われ、元キハチ総料理長鈴木眞雄シェフによる、お米の美味しさを味わえる 3 品のメニューの提供がありました。

参加者からは、「大粒でかめばかむほどまみの広がる美味しい米だ」と好評を得たほか、五つ星お米マイスターの小久保一郎氏からも、「他産地のコシヒカリと比べてコシヒカリのトップになり得るお米、それが ASAKAMAI 887 です」とのコメントをいただきました。



【ASAKAMAI 887 発表会の様子】

ASAKAMAI 887 は、精米したてのおいしさ、鮮度を長期間保てる真空パックを採用し、郡山市産杉材「と・き・め・木」製 3 合拵入り（450g）が税込み 1,500 円で、郡山駅西口駅前広場のトレーラーハウスで 12 月 7 日から 16 日まで 10 日間の期間限定でモニター販売が行われます。

お問い合わせは、こおりやま食のブランド推進協議会事務局（郡山市園芸畜産振興課内 TEL024-924-3761）までお願いします。

また、JA 福島さくら郡山地区本部営農経済部（024-921-0527）で注文を受け付けております。業務用販売についてのお問い合わせも JA までお願いします。



【市長、JA 組合長、生産者、ミス郡山による商品披露】



【商品内容と風呂敷 3 個包み(5,000 円)】

農林業関係の動き（トピックス）

『こおりやま産業博』に出展しました！ 【企画部】

10月5日（金）～7日（日）に郡山市のビッグパレットふくしまで開催された「こおりやま産業博-KORIYAMA EXPO2018-」に出展しました。

産業博には205の企業や団体が出展し、企業による様々な産業の紹介や食と特産品の即売が行われました。

県中農林事務所では、県中地方・地域産業6次化ネットワーク会員の6事業者が、屋内3ブース、屋外2ブースに出展し、6次化商品の試食・販売・PRを行いました。出展した各ブースでは、商品の説明や試食・販売・商談など、訪れたお客様への対応で賑わい、商品が完売したブースもありました。



【6次化ネットワークのブースの様子】



【まえだ養蜂】



【東日本薬草合同会社】



【株式会社 阿部農縁】



【薄井農園とネモト物産】

小野町農作物品評会で見事な『白菜』が県知事賞を受賞しました！

【田村農業普及所】

「平成30年度小野町農作物品評会」が、10月27日（土）～28日（日）に小野運動公園町民体育館で開催されました。

本品評会は、優良な農作物の供給地として発展するため、小野町が各種施策を展開している中で実施しており、生産者の意識高揚を図ること、消費者と生産者の相互理解を深めることを目的としています。

今年度は、園芸作物を中心に99点が出品されました。

厳正な審査の結果、福島県知事賞1点を始めとする各賞が選定され、福島県知事賞に吉田義貞氏生産の白菜が受賞しました。

表彰式では、審査長である田村農業普及所の菅野所長より、「いずれの出品物も

甲乙つけがたく、審査には苦慮した。

この度の品評会を通じて、小野町生産者の農業に対する強い想いと農産物に対する愛情が伝わってきた。」と審査を講評し、知事賞を伝達しました。



【表彰式での知事賞伝達の様子】



【知事賞受賞の見事な「白菜」】

『菌床しいたけイノベーションセンター』竣工式が行われました！

【森林林業部】

10月31日（水）、郡山市日和田町において、JA全農福島が整備した菌床しいたけイノベーションセンター竣工式が行われました。

同センターは、「高品質・高収量の栽培技術の確立と普及」、「菌床の製造・供給」、「新規栽培希望者・後継者育成のため実習受入」などを進め、県内きのこ生産者の所得向上と生産基盤拡大を図る目的で設置されました。

【テープカットの様子】

JA全農福島は、当センターの稼働と併せて通年販売できる菌床しいたけ栽培を目的とした施設貸付事業も実施しており、いまだ震災・原発事故前の7割にとどまっている生しいたけの取扱量の拡大と安定した出荷、価格の向上が期待されています。



『(株)デンソー本社ハッピーフェスタ』に出展しました！ 【企画部】

11月3日（土）～4日（日）、愛知県刈谷市に本社を置く株式会社デンソーが主催するデンソーハッピーフェスタに出展しました。

フェスタには、デンソー福島工場が立地している田村市とともに田村市産の特産品や加工品と県中地方の農産物や6次化商品などをPRしました。

ブースには、本県出身の社員等をはじめ、多くの近隣住民が訪れ、地元では購入できない数々の商品をお買い求めいただきました。

また、本県からは、農産物流通課による新米や名古屋事務所による日本酒のPRも行われました。



【県中地方特産品PRの様子】



【新米（天のつぶ）PRの様子】



【田村市特産品・日本酒PRの様子】

『森宿地区』の起工式が行われました！ 【農村整備部】

平成29年度に採択された、農村地域復興再生基盤総合整備事業（農地整備事業（経営体育成型））「森宿地区」の起工式が、11月9日（金）、須賀川市森宿字糶山地内において、地元関係者や須賀川市長、須賀川市土地改良区理事長、県中農林事務所長、工事関係者など、約40名が出席し執り行われました。

本地区の総事業費は12億4千4百万円で、平成35年度までの7年間で70.5haの農地を整備する予定で、ほ場の大区画化に合わせて、用排水路及び農道等の整備を行うものです。

事業実施により担い手への農地利用集積を図り、経営規模拡大等による農業経営の安定化が図られることとなります。



【鍬入れの儀】



【桃井県中農林事務所長挨拶】

『おいしい ふくしま いただきます！』キャンペーン県中地方第4回 県産農林水産物PRを行いました！ 【企画部】

当キャンペーンは、管内4方部において、県産農林水産物の美味しさや魅力など消費者に直接PRを行い、消費拡大と地産地消の推進目的に開催しています。

第4回キャンペーンは、11月11日（日）田村市のリオンドール船引店において、県産米をテーマに開催しました。今回は、県オリジナル水稻品種の「天のつぶ」と「里山のつぶ」を来場者に試食していただきました。



【新米の試食の様子】



【キャンペーンの様子】

「うつくしまライシーホワイト」の渡邊麻美さんから県産米のPRしてもらったほか、店内で炊飯した新米を一口大の「おにぎり」にして来場者へ手渡し食べ比べていただいたところ、「天のつぶの旨みを感じた」（65%）、「里山のつぶの旨みを感じた」（64%）、「天のつぶ・里山のつぶの粒の大きさや適度な粘りを感じた」、「天のつぶを初めて試食し美味しいので、定期的に購入する」等、9割以上の方から肯定的な感想をいただきました。

また、試食と併せて、県産農林水産物購入頻度等のアンケートを行い、「天のつぶ」または「里山のつぶ」の新米300gパックを300名にプレゼントしました。

試食した子供たちからも、「おいしい！」との声が聞かれるなど、賑やかなキャンペーンとなりました。

職場研修会を開催しました！

県中農林事務所の職員を対象とした職場研修会を、10月15日（月）、11月21日（水）に行いました。

第1回研修会は、荒涼とした安積原野を実りの土地へ、そして現在の郡山市の農業発展の礎になった「世界かんがい施設遺産」安積疏水関連施設の「十六橋水門」、「上戸取水口」、「熱海頭首工」などの施設で行いました。第2回は、田村市都路町古道地内の大規模広葉樹林実証事業地内において、震災・原発事故以前に全国一のしいたけ原木生産量で誇っていた、田村地方のしいたけ原木林再生の可能性を考える目的で行いました。



【安積疎水十六橋水門】



【都路地区の現地調査】

内山正勝・ナツ子夫妻の第59回福島県農業賞受賞祝賀会が行われました！ 【須賀川農業普及所】

11月17日（土）、グランシア須賀川（須賀川市）において、天栄村で水稻栽培を営む内山正勝・ナツ子夫妻の第59回福島県農業賞（経営改善部門）受賞祝賀会が開催されました。

祝賀会は、天栄村認定農業者会が発起人となり、村内の農業者をはじめ、関係機関・団体職員など多くの関係者約150人が出席して、内山夫妻の受賞を盛大にお祝いしました。



【祝賀会の様子】

平成30年度農事功績表彰者を御紹介します！ 【企画部】

公益社団法人大日本農会が主催する平成30年度の農事功績者表彰で、田村市都路町の吉田修一さんが緑白綬有功章を受章されました。

吉田さんは、昭和58年にトマトのビニールハウス栽培を開始し、栽培技術の確立などを通して経営改善に努められ、震災・原発事故後にあつては、いち早く営農を再開し、一時避難指示区域となった都路地区の農業の復興を牽引されました。

また、県の指導農業士として若手の育成に貢献し、ほ場整備事業では工事委員会副会長として農地集積にも取り組まれました。

これらの功績により、今年度、福島県からただ一人の受章者として、11月14日（水）に東京都の石垣記念ホールにおいて、大日本農会の総裁である、秋篠宮親王殿下下御臨席のもとに行われた表彰式において、賞章を授与されました。

11月22日（木）に、吉田さんが受章の報告のため、県中農林事務所を訪問されましたので、御紹介いたします。



【吉田修一さん（中央）】

頑張る農業者！！



『小抜農匠園株式会社』小抜 吉平氏（須賀川市）

小抜さんは、水稻、露地野菜の複合経営を確立し、安定的な農業所得確保のため独自の販路開拓に努めてきました。また、エコファーマー認定も取得し、環境に配慮した農業を実践しています。

平成25年には、小抜農匠園株式会社を設立し、高低差が大きく条件が悪い農地を率先して引き受けるなど、地域の中心的经营体として活躍されています。

また、今年度より、密苗、リモートセンシングと可変施肥、水管理システム等を実証する「ふくしまアグリイノベーション実証事業」に協力頂くなど、先進技術の導入にも積極的です。

さらには、幼稚園の園児へバケツ稲やジャガイモの植え付け、収穫作業体験など、食育活動も積極的に取り組んでおられます。

このような数々の活動が認められて、平成30年度の須賀川市農業賞を受賞されました。



【小抜 吉平氏】

産地の動き！

さつまいもの作業機械実演会が開催されました！【田村農業普及所】

10月18日（木）に、田村市常葉町で「NPO 法人うつくしま・ふくしま農産物普及協議会」が、さつまいもの作業機械実演会を開催しました。

当日は、機械メーカーによる畝立てから収穫までの機械作業の実演が行われ、さつまいも生産者からは、『作業の効率性や省力化に感心した』などの感想が多数寄せられました。

現在、田村地域では、さつまいも（紅はるか）が約140a（生産者4名）ほど作付けされています。

今後、遊休農地を有効活用できる品目として、作付け拡大が期待できます。

田村農業普及所では、引き続き、栽培技術等に関する相談や各種支援を行っていきます。



【さつまいもの掘上げ作業実演の様子】



【さつまいもの収穫作業実演の様子】

次世代を担う地域農業先端モデル事業の現地検討会を開催しました！ 【農業振興普及部】

10月29日（月）に、郡山市西田町鬼生田地区において、「攻めの農業技術革新郡山地域協議会」による、次世代を担う地域農業先端モデル実証ほの現地検討会を行いました。

この実証では、高性能収穫機械等の導入による作業の効率化を進め、経営規模の拡大を目指し郡山地域においては、サツマイモ栽培の機械化体系を実証しています。

5月に定植したサツマイモが収穫期を迎えたことから、労働負担を軽減する技術として、かんしょ収穫機による収穫作業の実証を行いました。

実証農家からは、「座ったままで作業できるのはとても楽で良い」などの感想が聞かれました。

この後も収穫作業を進めた結果、1週間程で1haのほ場のサツマイモを収穫することができました。

農業振興普及部では、この実証結果を踏まえて大規模栽培の取り組みや遊休農地等の解消を推進していきます。



【収穫機械による現地検討会の様子】



～ おいしい6次化商品のご紹介 ～



ふくなか すいーつ

○菓子工房あくつ屋○

今回は、県中地方地域産業6次化ネットワーク会員で、田村市役所前で営業されている、大正十二年創業の伝統ある和洋菓子店『菓子工房あくつ屋』様を紹介いたします。

売れ筋は、お土産等にも最適な地元産“えごま”入りお菓子の各種！

中でも一番のオススメは、甘さ控えめの“こし餡”を、地元特産品の“えごま”を練り込んだ皮で包んで揚げた『かりんとう饅頭』！！

最中の皮の中に、“えごま”を入れたラング・ド・シャ（※）のような生地を載せて焼いたサクサク軽い口溶けの良い「えごま大好き」というお菓子もオススメです。

また、やまぶどうを使用した羊羹、洋菓子も美味しいです！

ご紹介した「菓子工房あくつ屋」様は、今年度の「ふくなかすいーつ消費拡大キャンペーン」を展開していただいた事業者でもあります。

（※）細長い独特の形をしたクッキーまたはビスケット。フランス語で「猫の舌」という意味。



お問い合わせ先

- 名称：菓子工房 あくつ屋
- 住所：〒963-4312
田村市船引町船引字畑添 96-1
- 電話：0247-82-0223
- 営業時間：8：00～19：00
- 定休日：第1、第3日曜日（代休あり）



各部・各普及所の紹介

農村整備部の紹介！

農村整備部は、部長、副部長をはじめ農地計画課 11名、農村整備課 18名の2課31名体制で業務を行っています。
それでは、各課の業務内容についてご紹介します。

～農地計画課～

主に調査計画に関する業務と用地関係に関する業務の2つに分かれています。

まず、調査計画に関する業務は、①農地の大区画化を図るほ場整備事業や老朽化した水路や頭首工、農業集落排水施設などの補修や更新を行うストックマネジメント事業など多岐にわたる農業農村整備事業の調査計画、②多面的機能支払交付金やため池放射性物質対策、③農業用水の水利権更新や地籍調査などがあります。

次に、用地関係に関する業務は、①農業農村整備事業実施に係る用地取得及び補償業務、登記事務、②ほ場整備に伴う換地及び農地集積業務、③土地改良財産の管理及び処分、砂利採取の許可などがあります。



【ほ場整備事業に関する説明会の様子】

～農村整備課～

農村整備課では、農地計画課で実施・支援している調査計画を基に各事業内容に沿った農業土木工事を実施する業務と災害復旧に関する業務を行っています。

農業土木工事では、工事に要する費用を算出し、工事の内容・留意点が記された設計書を作成する発注業務、工事全体の進捗や構造物が適正に施工されているか工事現場全体を管理する現場監督員業務です。

災害復旧では、地震、大雨等で被災した農地や農道、水路などの農業用施設復旧のための業務を行っています。



【工事現場の確認立会の様子】



お問い合わせ先

- 福島県農中農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒963-8540 福島県郡山市麓山一丁目1番1号
TEL (024) 935-1510 / FAX (024) 935-1314
- ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36220a/>
- メールアドレス kikaku.af02@pref.fukushima.lg.jp